

令和 3 年度

公立大学法人 業務実績評価書

令和 4 年 8 月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和3年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育を行うとともに、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病予防の取組を幅広く展開するなど地域連携にも注力している。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、対面授業、遠隔授業を的確に組み合わせて行ったほか、大学の特色である医科歯科連携実習も継続するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。特に、理事長の強力なリーダーシップにより、卒業目標の達成に向けて学修成果を明示する「アウトカム基盤型教育」の実現に向けた教育改革を推進し、学修評価へのルーブリック活用、臨床教育への先進的シミュレーターの導入、大学院修了率の向上などの成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

九州歯科大学は、歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を積極的に行っている。引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、これらの取組を一層推進し、地域歯科医療及びその人材育成の中核として発展することを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を上回る取組や、充実した教育を推進するための積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
 - ・ 新入生スタートアップ学修支援プログラムを開始し、高校における生物と化学の未履修者を中心とした学修支援を実施するなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
 - ・ モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、コロナ禍において総合病院での医科歯科連携実習を継続し、実践的な歯科医療人の育成に力を入れている。
 - ・ 他に先駆けて導入したデジタル歯科シミュレーターを、学部での技能教育に適した形に一段と改良を加え、学生の臨床技能の向上に向けて実習を充実させた。
 - ・ コロナ禍において、シラバスにおいて評価基準を明確にして遠隔授業を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に実施することにより、学生の学力の向上に取り組んだ。
 - ・ 学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和4年の歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）が全国29大学中2位と高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率が引き続き100%であった。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・ ルーブリック評価法を導入し、評価の観点と基準を示したうえで、学生の学びの達成度を適切に評価するとともに、学位の申請要件を見直すことにより、修業年限での学位取得の増加に繋げるなど、大学院の教育システムを顕著に改善している。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・ 個人業績評価で教育業績の低い教員に対して、職位に応じた教育力向上プランを提示し改善を求めたほか、同僚等による授業評価

を行うなど、教育活動の改善に取り組んでいる。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・コロナ禍において、WEBオープンキャンパス、高校訪問を検証し工夫しながら実施するとともに、広報誌 Platys を活用して、意欲のある優れた人材の確保に取り組んでいる。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・健康問題や精神的な悩みを抱える学生、成績不振の学生等に対し、教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携して支援を行うとともに、コロナ禍において、新生生に対しては、初年次ガイダンス等を通じて、円滑に遠隔授業の受講ができるよう修学環境構築の支援を行った。

(6) キャリア支援

- ・口腔保健学科に重点が置かれていた就職支援体制を見直して、学部及び大学院のキャリアデザイン支援を強化するためのキャリアサポート会議を設置するとともに、歯学科にキャリアデザインに関する新たな科目を開講して、多様なキャリアパスに結びつくインターンシップ等の活動を支援した。口腔保健学科においては、引き続き就職率100%を達成している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数、科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、研究活動の充実に取り組んでいる。
- ・地域の総合病院と連携を強化して小児期の健全な成長発育に向けた研究を行うとともに、寄附講座において、参加企業と連携して歯周病の病態を数値化するシステムを構築するなど、地域包括ケアシステムに資する研究を展開している。
- ・成人歯周病検診を幅広く展開するため、企業等との連携により大規模な歯周病リスク検査を実施し、歯周病予防と全身疾患の関連に係る研究を展開しているほか、歯周病重症化予防のため、国民皆歯科検診の実現に向けた研究を開始している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・コロナ禍において活動が制限される中、地域の総合病院や歯科医院と連携を深め、小児歯科医療に関するリカレント講座を実施したほか、開業医からの相談にオンラインで対応した。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を充実させるとともに、成人歯周病予防の取組を幅広く展開するため、地域の経済団体等との連携のもと、6000人を超える従業員を対象とした、コロナ禍に対応できる歯周病検査キットを用いた郵送検診事業を展開している。
- ・学生の海外短期派遣プログラムの実施が困難な中、当該プログラムに代えて、タイ、台湾の大学との間でオンライン国際交流プログラムを実施した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・スマートフォンを活用して学生の健康状態を毎日確認するなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を継続した。また、学生の健康管理を図るため、教員、保健師及びカウンセラーで情報共有を行い、学生指導に繋げるとともに、障がいのある学生をサポートするための体制を整備している。
- ・附属病院に口腔リハビリテーションセンターを開設し、歯科医師と歯科衛生士がより連携しやすい体制とし、訪問診療の充実を図

った。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で理事長自ら決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、電子カルテシステムを活用し、データ解析に基づく病院経営管理を行っている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築し、学生のアンケート結果や外部評価を、教育の改善や大学の方針決定に反映できるよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を図り、教育研究情報の適切な公開に努めている。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和3年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

福岡女子大学では、クォーター制導入後のカリキュラム改定、教育の場としての寮活動の充実、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施している。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響は継続したが、対面授業と遠隔授業を的確に組み合わせ対応したほか、外国人留学生の受入れや海外への学生派遣が大きく制限される中で、交換留学生の派遣を再開させることができ、またオンラインによる教職員及び学生の国際交流を推進するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。特に、平成30年度のクォーター制導入直後から、教育・学習支援センターで授業アンケートやファカルティ・ディベロップメント（FD）等のボトムアップ機能も活用しながら教育効果等の検証を行い、教職協働によるカリキュラム改定プロジェクト会議において検証結果を踏まえたカリキュラムの見直しを実現した点や、継続して社会人女性のための高品質のキャリアアップ・プログラムを実施し成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、令和5年の創立100周年に向けて、社会から高く評価される大学づくりに全力で取り組んでいる。引き続き、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、構築した内部質保証体制を機能させながら、実効性の高い取組を一層進められることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、充実した教育を推進するための積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・クォーター制導入後、学生アンケートやFD等による教育効果の検証及び改善に取り組み、学生の主体的な学びを支える科目編成や、リーダーシップ開発系科目を選択必修科目として設定するなどした新たなカリキュラム（令和4年度入学生から適用）を完成させた。
- ・英語教育を「学術・キャリア英語プログラム」に再構築するとともに、「上級英語」を必修科目とするなどして、2年間の英語集中学習と専門教育が連動するような教育を導入した。
- ・新カリキュラムにおいて女性リーダー育成関連科目を充実させるとともに、リーダーシップ向上を目的とした学内委員会への学生参画についての意義を自覚させることに加え、活動の振り返りの機会を設け、その成果の発信を行うなど、女性リーダー育成教育を推進している。
- ・コロナ禍において、協定校等が実施するオンライン研修やセミナーに多くの学生を参加させるとともに、18名の交換留学生の派遣を行うなど、国際性豊かな学習環境を提供している。
- ・「国際学友寮 なでしこ」に新入生全員を入寮させ、2年生からリーダーシップ等を学ぶプログラムや、寮運営に参加する学生向けの研修を実施するなど、コロナ禍においても、教育の場としての寮体制を充実させている。
- ・食・健康学科において、カリキュラムを見直し、学生の効果的な学びに繋げるとともに、管理栄養士国家試験の合格率が4年連続で100%を達成した。

(2) 大学院課程

- ・人間環境科学研究科においてオムニバス形式の講義を行ったほか、学際的な教育研究のため、人文社会科学研究科の学生と交流す

る授業を行うなど、大学院教育を工夫して行っている。

(3) 教育活動の活性化

- ・目標を大きく上回る回数のFDを行っただけでなく、全教職員参加型FDに加え、参加者が自発的にテーマを設定して担当領域の改善を図るワークショップ型のFDも行うなど、工夫して教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、昨年に引き続き、人数を限定した来校型のオープンキャンパスを行ったほか、高校教員を対象とした大学概要説明会を初めてオンラインで実施するなど、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・シラバスに「事前・事後学習」欄を設け、学生の自主学習時間の確保を促したほか、留学生の専門課程の学習をサポートする制度を創設した。
- ・コロナ禍において、学年間の交流を促す企画を実施したほか、学生相談室についての情報を積極的に発信し、利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。

(6) キャリア形成の支援

- ・キャリア教育を新カリキュラムにおける「リーダーシップ開発系」に位置付けるとともに、インターンシップを通して就業観を育む新たな科目を開講したほか、キャリア支援部会を新設して、学生の就職活動状況に関する教職員の情報共有を促進するなど、キャリア形成の支援に取り組んでいる。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・若手研究者等の支援を図るため研究奨励交付金の見直しを行うとともに、新任教員や昇任教員による講演会を地域に開かれた形で実施するなど、研究の活性化に努めている。学術誌への論文掲載数も目標を上回っている。
- ・大学の知的資源を活用した社会的重要課題に対応する研究拠点として、「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」を設立した。
- ・コロナ禍において、「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みにおける共同研究に加え、コンソーシアム外の大学との共同研究も実現させるなど、国際的な研究交流を進めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・コロナ禍においても、女性のキャリアアップ支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」を実施した。また、再就職支援のために実施した「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」では受講生の雇用に繋がったほか、各プログラムとも受講生から高い満足度を得ている。
- ・出前講座やイングリッシュ・キャンプ等、高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジ、地域コミュニティとの連携事業等について、コロナ禍においても工夫して取り組むとともに、福岡女子大学美術館において地域に開かれた様々な企画展を行うなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・コロナ禍において、日本人学生が外国人留学生のための日本文化イベントをオンラインで実施するとともに、オンラインを活用した交流プログラムに多くの日本人学生が参加するなど、国際交流を推進している。また、海外大学との交流を充実させるため、欧州の大学と新たに学術交流協定を締結した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学職員としての専門性を高めるため、新任職員や昇任した職員に対する研修会を実施したほか、教職協働の点から、教員対象の研修会にも職員が積極的に参加している。
- ・業務削減と経費節減を目的とした企画を部署横断的に職員から募集する「福女大コストバスターズアワード」を実施し、時間外勤務の削減に繋げた。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科研費獲得セミナー実施のほか、科研費獲得者によるピアレビューや採択申請書の閲覧等、科研費獲得に向けた支援を継続し、一定の収入実績をあげている。
- ・時間外勤務の管理を見直し、人員配置を工夫するなどして時間外勤務手当を削減した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新カリキュラムの内容について大学ホームページ等で紹介するとともに、ブログの運用、広報誌における高校生向けの新企画の導入など、大学の情報発信の強化に取り組んだ。また、学生デザインによるオリジナルグッズの配布・販売等、関係部署が連携して、100周年を素材とした積極的な広報の推進を図っている。
- ・新たに自己点検・評価委員会を中心に内部質保証体制を整備している。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和3年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

福岡県立大学では、「学生ファースト」の理念に基づく内部質保証体制の下、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組み成果を上げている。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、対面授業と遠隔授業を的確に使い分け、また、eラーニングやオンラインによる国際交流も進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域貢献活動にも取り組んでいる。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談支援や学生サポート活動、学習ボランティア派遣による学習支援に加え、新たに不登校児童生徒の社会的自立支援体制の構築に取り組むなどの顕著な成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、構築した内部質保証体制を機能させながら、教育研究の更なる充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学ぶことができる「多職種連携プログラム」を立ち上げ、令和4年度からの実施に向けて科目の決定を行った。
 - ・授業の特質と感染症のまん延状況等に応じて、対面方式、遠隔方式を使い分けた授業の実施形態としたほか、教養演習テキストの改訂や習熟度別英語クラス編成の検討を行うなど、教養教育の充実を図っている。
 - ・人間社会学部の総合人間社会コースにおいて、全学横断型教育プログラムの履修要件を満たした学生に「学修証明書」を初めて交付した。
 - ・看護学部において、看護技術を強化するため、新たな科目の設置や、OSCE（客観的臨床能力試験）の実施、学生の自主活動である「看護技術極め隊」の活動支援に取り組んだ。また、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムの構成大学と共同で、看護師国家資格に対応した学びを基盤としつつ、医療の高度化、細分化、国際化等の変化に対応するための新たなプログラムを創設した。
 - ・看護師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象とした満足度調査を実施し改善を図るとともに、社会人学生のニーズを考慮し、メディア授業科目の設置や実習先選択方法の見直しを行うなど、大学院教育の充実に取り組んでいる。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象としたeラーニングに関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとと

もに、学修成果を的確に把握するためのアセスメント・プランを実施するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談に加え、教職員と学生が協働して作成した大学の紹介動画を活用して入試広報活動を行ったほか、高大連携授業や出前講義により、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。
- ・看護学部において、令和4年度入試から、国公立大学で初めて全国児童養護施設推薦特別選抜を導入した。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・図書館分館のラーニングcommonsを個別学習の場としてレイアウトを変更し、パソコンの更新を行うとともに、本館入館時の手荷物持込みを認める試行に取り組んだほか、大学院社会人学生との座談会を開催するなど、学生の学習環境の整備に努めている。
- ・成績不振の学生に対して教職員が連携して個別支援を行うとともに、障がいのある学生に対して修学上の支援計画を決定し対応するなど、学生の学修・生活支援体制の充実を図っている。

(6) キャリア支援

- ・コロナ禍において、プレ・インターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施するとともに、受入先企業等にアンケートを行い、その結果を学生にフィードバックして今後の学びに関する目標を作成させるなど、キャリア支援の充実に取り組んでいるほか、就職率が高水準を維持している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数が増加するとともに、科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っている。
- ・研究水準の向上を図るため、研究奨励交付金の配分を見直し、重点領域研究の範囲の拡大、科学研究費申請助成額の拡大を行った。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る福岡県の行政課題の解決にも資する取組、中期計画に掲げられた事項以外にも、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修を実施している。また、新たに看護師の特定行為研修を開講し、7名の修了生を輩出した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が4,300件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を更新した。さらに、新たに不登校児童生徒社会的自立支援事業を開始し、モデル校での不登校情報の分析支援や教育関係者によるネットワーク会議を行うとともに、令和4年度から開始予定の不登校対策に関わる人材育成研修のカリキュラムを作成するなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行っている。また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した延べ人数が1,100人を超えるなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・コロナ禍において、海外の交流協定締結校とオンラインによる交流イベントを実施したほか、新たにオンラインプログラムに関する協定も締結するなど、国際交流の充実を図っている。
- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を3回（計5,071件接種）行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学生窓口の一本化を図るため、就職・キャリア支援を担うキャリアオフィスを、奨学金等学生支援を担う部署と同じ場所に移設したほか、学生の集いの場所としてFPUホールを新たに設けた。
- ・遠隔授業の実施に際し、ITに関する学生及び教職員からの相談対応等の業務委託を継続し、事務の効率化を図っている。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなどして、教育等に関する外部資金の獲得に努めており、獲得額も目標を上回っている。
- ・大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、2か月間有償で貸し出しを行い、大学施設を有効に活用した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「学生ファースト」の理念の下、IRサイクル総合会議、内部質保証・サイクル推進会議、IR推進室が中心となって、学生の意見を把握し、教育の改善に取り組んでいる。また、年に2回開催している大学改革セミナーにおいて、内部質保証におけるPDCAサイクルの向上について学内に周知を図っている。
- ・高校訪問、入試説明会、出前講座の機会を通じて大学情報を広く発信しているとともに、学生や地域住民に向け、大学の新型コロナウイルス感染症の関連情報も発信するなど、学内情報の公開に努めている。